

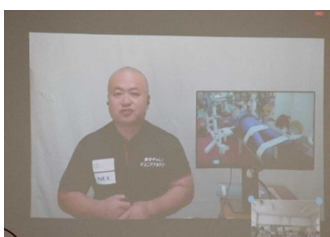



## 事業実施報告書

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

学校名 藤枝市立西益津中学校

I	スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II	マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III	スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV	日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V	スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	全校生徒317名 教職員 24名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>①教科名 ( 総合的な学習の時間 )</p> <p>②行事名 ( )</p> <p>③その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>①イベント名 ( ) ②その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育、障害者理解教育の一貫として、障害のある人と障害のない人が共に生きていくことができる「共生社会」をめざそうとする態度を育てる。</li> <li>・パラリンピアンのお話を聴くことを通して、努力することや夢を持つことの大切さに気づき、そのために何ができるか考えることができるようにする。</li> </ul>
5 取組内容	<p>1 【パラアスリートによるオンラインによるワークショップ型授業】</p> <p>(1)日時 令和2年10月6・8・9日(月) 各学年1時間実施</p> <p>(2)場所 本校各教室</p> <p>(3)協力 日本財団パラリンピックスポーツセンター</p> <p>(4)内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害をもつ講師から、自身の経験等をお話していただくことで、障害とは何かを自分の視点から考える。</li> <li>・講師との対話を通して、共生社会の中で自分はどう行動していくかを考え、理解を深める。</li> </ul> <p>(5)活動の様子</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 2;"> <p>講師：馬島 誠氏 (パラパワーリフティング選手)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京(事務局)ー長野(講師)ー藤枝(本校)をネットをつないだ。</li> <li>・障害者である講師から、障害を乗り越えてきたご自身の経験をお話いただき、生徒は関心をもって聞くことができた。</li> <li>・講師が一方向的に話すのではなく、対話や反応を大切にしてくれたので、生徒も積極的に質問したり、発言することができた。</li> </ul> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">    </div>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の最後には、学んだことを行動に移すことができるよう、「あすチャレ宣言」をまとめ、発表する機会をもった。それぞれ、自分なりの思いを持っており、自分事として考えることができた。</li> <li>・画面越しではあるが、リアルタイムで講師とのやりとりができたことで、「いくつになっても夢をもつこと」「困難があっても乗り越える勇気をもつこと」「障害を持った方の思い」などを学び、「共生社会」について考えるよい機会となった。</li> </ul>
<p>6 主な成果</p>	<p>&lt;生徒の感想&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車椅子の人だから、これはできないなど決めつけるのではなく、車椅子の人に「これってできる？」などを聞いてから決めた方がいいなと思った。</li> <li>・障害がない私たちでも、できないからやめようと思うことがあるけど、障害のある人はこれができないからできるようにしようと思っているから、私はこれから今自分ができないことをできるようにするのを目標にする。</li> <li>・馬島さんの「感謝」「顔晴る」「他喜力」が印象に残った。誰かのために行動すると、相手も喜び、自分も嬉しくなると思う。そんな力は私にはまだないので、みんなのために動けるようになりたい。</li> <li>・パラリンピックのことをいろいろ知ることができてよかった。</li> <li>・話を聞いて、あきらめないで努力することが大事だと思った。</li> <li>・馬島さんのお話から、自分の考えが少し変わりました。「努力は結果」なんだと思いました。だから、私もあきらめずに頑張ろうと思ったし、それが難しくなっても「大切な人の笑顔」を思い浮かべて頑張ろうと思います。</li> </ul> <p>&lt;他の教育活動との関連&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生の福祉学習、道徳などに関連付けることができた。3学期には、障害をもった兄弟の作文を朗読する会を予定しており、単発で終わらないようにすることで、生徒の「共生社会の実現」に向けた意識や、障害者理解が深まると思われる。</li> </ul>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度は、コロナにより、講師を招聘することが難しいと判断し、リモートで講師と学校をつなぐことができる「あすチャレ」の事業を活用させていただいた。</li> <li>・各学年単位で4回に分けて分割開催し、できるだけ講師と教室の生徒のやりとりが可能となるようにした。</li> <li>・2年生では、総合の福祉学習の後に位置づけたので、意欲・関心が高かった。</li> </ul>
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リモートにより、東京―長野―静岡をつないで、講師のお話を聞くことができた。機器を活用して開催するために、事前の準備が大変だった。(機材一式は相手方が準備してくれた)</li> <li>・本年度は、単発となってしまったが、コロナ禍の中でも、同様の活動が組めたことがよかった。昨年度からの実績をふまえ、学校の教育活動を関連づけ、前年度のうちに年間計画に位置づけていくことが必要。</li> <li>・全員に体験させるには、時間の確保、十分な用具の準備、協力する組織が不可欠で学校だけで取り組むことはかなりの労力と費用が必要になる。今回、「あすチャレ」を活用したが、このような情報提供を今後も継続していただきたい。</li> </ul>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館で、パブリックビューイングの体制を整え、全員で地元出身の選手を応援する時間を設けるなど、実際に会場に行けない生徒でも、雰囲気味わったり、応援したりする機会を設けたい。(市の協力を要請する)</li> <li>・ポッチャの用具を複数用意し、学年や学級のレクリエーションなどで活用したり、特別支援学級との交流に活用したりするなど、継続的に障害者スポーツに取り組んでいきたい。また、小学生や地域のお年寄りとの交流機会等も考えられる。</li> <li>・タイムリーな話題となるので、各教科等において、関連付けた内容を取り扱い、生徒がより一層の興味関心を持ち、具体的に行動できるところまでもっていく方策を考えたい。</li> </ul>

## 事業実施報告書

### 令和元年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

学校名 藤枝市立西益津中学校

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	全校生徒327名 教職員 24名
3 展開の形式	<p>(3) 学校における活動</p> <p>①教科名 ( 保健体育「障害者スポーツ」 )</p> <p>②行事名 ( パラスポーツに関する講演会 )</p> <p>③その他 ( )</p> <p>(4) 地域における活動</p> <p>①イベント名 ( ) ②その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育、障害者理解教育の一貫として、障害のある人と障害のない人が共に生きていくことができる「共生社会」をめざそうとする態度を育てる。</li> <li>・保健体育の授業と福祉教育を関連付け、通常学級の生徒と特別支援学級の生徒が障害者スポーツを実践する中で、互いを理解し、交流を深めていくきっかけにする。</li> <li>・オリンピックの講演を聴くことを通して、努力することや夢を持つことの大切さに気づき、そのために何ができるか考えることができるようにする。</li> </ul>
5 取組内容	<p><b>1 保健体育</b></p> <p>(1) 障害者スポーツの体験から学ぶ（特別支援学級生徒との交流学习）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボッチャ体験学習実施（11月25日）全学年実施</li> <li>・オリンピック秋元妙美選手の指導と講話</li> </ul> <p><b>2 パラリンピックメダリストを招いての講演会（12月3日実施）</b></p> <p>(1) リオメダリストの地元出身の佐藤友祈選手を招いて、「夢をもつこと」「困難を乗り越えて生きる力」等のお話をしていただき、パラリンピックへの興味関心を高めるとともに、夢をもつことの大切さについて学ぶことができた。</p> <p>(2) 障害者スポーツの観点から、レーサーの体験乗車やデモンストレーション、メダルやレーサーなどに実際にふれる体験を行った。</p> <p><b>6 その他（市スポーツ振興課との連携）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボッチャ体験学習では、市を通して東京オリパラの公式スポンサー東京海上日動の協力を要請し、元パラリンピアン秋元妙美選手を招き、指導と講演を依頼した。</li> </ul>
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボッチャの体験学習やレーサーの走行体験など、体験活動を重視し、取り入れたことにより、生徒が主体的に参加することができ、興味や関心がより高まった。</li> <li>・パラリンピアンを講師としてお招きし、「夢をもつこと」「あきらめずに努力すること」「周囲に感謝する気持ちをもつこと」など、生徒の生き方につながる貴重なお話をお聞きすることができた。その生き方に共感したり、夢や希望を持つことについて考えたりするきっかけになった。</li> <li>・オリンピック・パラリンピックへの興味や関心が高まり、自分なりのかかわり方を</li> </ul>

	<p>しようと思える生徒が多かった。</p> <p>&lt;生徒の感想&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボッチャの体験を通して、「障害」への見方が変わった。</li> <li>・2020年は、オリンピックとパラリンピックの両方を観戦したい。</li> <li>・地元出身の佐藤選手を応援し、金メダルをとってもらいたい。</li> <li>・自分の夢を周りの人に語ることで、応援してもらえるようになりたい。</li> <li>・自分にできることを精一杯やって、できないことは友だちと支え合いたい。</li> <li>・健常者でも、障害者でも「夢をあきらめない気持ち」は同じということがわかった。</li> <li>・自分で自信をもって自分の夢を語れる人はすごいし、素敵だと思った。</li> <li>・苦しいことから逃げずに、私の「金メダル」となるものを手に入れたい。</li> <li>・人の夢をバカにする人にはならず、応援する人になりたい。</li> </ul>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市のスポーツ振興課の協力を要請したことで、物品の貸し出しや講師の招聘など、市からのバックアップを受けることができた。また、市を通して東京オリパラの公式スポンサー東京海上日動の協力を要請し、元パラリンピアン秋元妙美選手を招き、指導と講演を依頼した。</li> <li>・佐藤友祈選手の講演会では、体験活動やふれあいの時間を設けることで、生徒の関心を高めた。</li> <li>・講演会や体験学習の前に、図書コーナーや掲示コーナーでオリパラについての予備知識を与えた。</li> <li>・講演会の前には、ボッチャの体験学習、講演会の後には、パラリンピアンに応援メッセージを送る事後の活動を位置づけ、単発で終わらないように工夫した。</li> </ul>
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の確保が各校に任されているということとで人選と、講師料の捻出することが難しかった。(助成がなければ呼ぶことができない。)</li> <li>・総合的な学習の時間、体育、道徳等では、テーマにそった内容を盛り込むことができたが、他教科への広がりはまだ感じられない。学校の教育活動を関連づけ、前年度のうちに年間計画に位置づけていくことが必要。</li> <li>・全員に体験させるには、時間の確保、十分な用具の準備、協力する組織が不可欠で学校だけで取り組むことはかなりの労力と費用が必要になる。</li> </ul>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館で、パブリックビューイングの体制を整え、全員で地元出身の選手を応援する時間を設けるなど、実際に会場に行けない生徒でも、雰囲気味わったり、応援したりする機会を設けたい。(市の協力を要請する)</li> <li>・ボッチャの用具を複数用意し、学年や学級のレクリエーションなどで活用したり、特別支援学級との交流に活用したりするなど、継続的に障害者スポーツに取り組んでいきたい。また、小学生や地域のお年寄りとの交流機会等も考えられる。</li> <li>・タイムリーな話題となるので、各教科等において、関連付けた内容を取り扱い、生徒がより一層の興味関心をもち、具体的に行動できるところまでもっていく方策を考えたい。</li> </ul>